

1年間の成果と課題（成果○、課題△）

研究推進委員会

研究主題

個々の主体的な学びを高める授業の創造（三年次）
～「二中スタンダード」による協働的な学びの実践を通して～

（1）「二中スタンダード」による協働的な学びの実践について

- 学校全体で取り組んだ「朝学習での『二中スタンダード』の実践」では、様々な形式の話し合い活動を行ってきたことで、自分の考えをまとめ表現していく力の向上が見られた。生徒同士の話し合いのスキルの向上としても効果的であった。
- 2学期以降、多くの教員がタブレットや電子黒板等のICT機器を積極的に授業に取り入れ、「協働的な学習」や「表現力」を育むツールとして活用することができた。
- 発言したりグループ活動を行ったりする際に、「二中スタンダード」を意識し、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。

【山形二中生活状況調査の結果より】

※全国学力学習状況調査の生徒質問紙から抜粋して毎学期全校生徒を対象に実施。（数値の単位は%）

質問	年度	学期	肯定的回答	質問	年度	学期	肯定的回答		
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか	R4	一学期	71.4	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	R4	一学期	83.9		
		二学期	75.2			二学期	85.5		
		三学期	71.8			三学期	83.5		
	R5	一学期	70.9		R5	一学期	84.9		
		二学期	73.5			二学期	88.0		
		三学期	74.6			三学期	88.5		
		県平均	66.6			県平均	81.6		
			全国平均		62.1			全国平均	79.7

△「協働的な学び」の実践が、生徒の理解度を高め、学力の向上につながっているのかについては、さらに検証が必要である。研究の成果として確認するためには、生徒の意識の変化とともに学びの定着を数値により図ることはできないか研究していきたい。

（2）「協働的な学びの実践」による個々の主体的な学びの高まりについて

- 振り返りの活動を研究の視点として、「授業を通して何がわかるようになったのか」を確認する時間をとった。その時間に学んだ内容の確認とともに、次の学習への意欲につなげることができた。
- 協働的な学びを充実させたことが、個々の主体的な学びの高まりにもつながるとともに、学んだことを他の学習に生かそうとする姿勢の高まりにもつながった。

質問	年度	学期	肯定的回答	質問	年度	学期	肯定的回答		
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている	R4	一学期	82.6	学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	R4	一学期	87.1		
		二学期	85.2			二学期	84.7		
		三学期	84.3			三学期	88.0		
	R5	一学期	82.6		R5	一学期	87.2		
		二学期	89.3			二学期	89.8		
		三学期	85.9			三学期	90.8		
		県平均	71.1			県平均	70.6		
			全国平均		69.1			全国平均	69.2

質問	年度	学期	肯定的回答	質問	年度	学期	肯定的回答
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる	R4	一学期	85.3	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている	R4	一学期	/
		二学期	86.5			二学期	
		三学期	84.5			三学期	
	R5	一学期	86.8		一学期	86.8	
		二学期	89.8		二学期	89.2	
		三学期	88.2		三学期	90.3	
		県平均	81		県平均	71.6	
		全国平均	79.2		全国平均	69.9	

△「協働的」という観点から、「かかわらせる」ということを意識しすぎたため、その必要性和効果がともなわない場面が見受けられた。学習内容や目的を意識しながら、適切で効果的な授業のスタイルを考えていくことを確認していく必要がある。

△ねらいや到達目標を明確にした授業づくりを行っていくために、教科ごとの「事前研」や「事後研」をしっかりと行う必要がある。そのためには、教科部会や教員一人ひとりの時間確保が課題となる。

(3) 来年度の校内研究に向けて

全校一斉に朝学習の中で行った「表現活動」では、話し合いの意味や方法、理論の組み立てなど、日々の授業でも活かせる力を習得できたと感じている。来年度も、授業はもちろん、学校の活動全体を通して意識して取り入れていく力であると考え。また、「授業力の向上」は、多忙な中でも、私たちが常に目指すべき本分であると認識していかなければならない。

来年度は、「研究の成果」「生徒の変容」をしっかりととらえる取り組みに力を入れていきたい。生徒に付いた力を確認するためにはどういう「振り返り」を行えばいいのか。あるいは、生徒がどこでつまづいているかを確認し、確実な定着に結びつけるのはどう対応していけばいいのかを重点としていきたい。

その取り組みに当たっては、ICT機器の活用がポイントになってくるものとする。下記の調査結果からも、本校の授業におけるICT機器の活用に関しては課題があるといえる。

質問	年度	学期	①ほぼ毎日	②週3回以上	③週1回以上	④月1回以上	⑤月1回未満	①+②
授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用していますか	R4	一学期	4.3	28.8	47.9	16.2	2.9	33.1
		二学期	13.0	35.6	34.1	14.8	2.5	48.6
		三学期	12.2	27.9	35.2	17.7	7.0	40.1
	R5	一学期	16.8	38.1	33.6	9.2	2.4	54.8
		二学期	16.6	31.6	36.9	10.3	4.6	48.1
		三学期	22.3	23.3	33.5	15.1	5.8	45.6
		県平均	17.2	36.1	32.6	11.4	2.5	53.3
		全国平均	28.1	33.0	26.4	9.6	2.7	61.1

こうした実態を受け、外部人材の積極的な活用も視野に入れた電子黒板やTeams等の使い方の研修を実施し、教員のICT活用のスキルアップを図ることでより効果的な活用を促していきたい。

また、ICTを活用することで生徒の弱点を把握してその対策を行ったり、思考の流れを可視化したりしながら生徒の理解や意欲の向上につなげていきたい。さらに、その過程や具体的な成果を数値でとらえ、変容を可視化できるようにしていこうと考えている。